

自然資本に関連するリスク・機会と財務的影響と対応策

事業部門	事業内容	リスク・機会	分類	想定される主なリスクと機会	事業インパクト	時間軸	重要度評価	対応策		
ホテル事業	宿泊施設の運営事業	移行リスク	評判	大量固形廃棄物の増加により、保全重要度の高い自然などに大きな影響を与えることによるレピュテーション低下や営業制限	売上低下、ブランド価値の喪失	短期	小	・固形廃棄物を適切に処分できる業者に委託 ・需給を予測し、食品ロスを減らす ・プラスチックのアメニティ使用の削減に取り組む		
				水を大量に使用する事業者として批判されることによるレピュテーション低下や営業制限	宿泊者利用制限による売上機会の損失、ブランド価値の喪失	長期	中	温泉やプールの水循環・再利用 過剰な水使用の抑制に関する周知		
				外来種侵入の要因として事業活動が指摘されることによる評判低下リスク	売上低下、ブランド価値の喪失	中期	小	周辺環境活動への投資 (琵琶レイクオーツカ周辺で外来魚駆除活動を行うなど)		
			政策	水使用量・水源保全規制の強化に伴い ・地方自治体による取水規制導入 ・温泉の適正採取基準の強化	宿泊者利用制限による売上機会の損失、ブランド価値の喪失	長期	中	温泉やプールの水循環・再利用 過剰な水使用の抑制に関する周知		
				外来種対策の義務化・規制強化 ・観光地での消毒マット設置義務荷物チェックの導入 ・外来種を持ち込んだ場合の罰則強化	追加対応コスト	中期	小	対応策としては罰則強化に対応するための事前の予防 外来種・希少種の生息ポテンシャルの調査などが考えられる		
				外来種侵入による自然環境の劣化 生態系破壊・景観の悪化(観光資源の価値低下)に伴い観光資源そのものの劣化	ホテル・観光地の魅力を減少に伴う売上減	中期	小	周辺環境活動への投資 (琵琶レイクオーツカ周辺で外来魚駆除活動を行うなど)		
		物理リスク	慢性	水不足(水ストレス)による事業継続リスク	事業停止に伴う売上機会の損失	長期	中	温泉やプールの水循環・再利用 過剰な水使用の抑制に関する周知		
				水質悪化リスク 浄化機能低下に伴う水の“購入・人工浄化”	追加対応コスト	長期	小	水源地の涵養のため、森林保護へ投資 琵琶レイクオーツカ:琵琶湖の水質改善のため琵琶湖に生える枯れ葦を使用したレイクパピルス®を名刺や封筒に利用 社員による琵琶湖の枯れ葦を刈り取るボランティア活動を実施		
				水質悪化により湖の景観価値が損なわれることによる宿泊者減少	売上低下、ブランド価値の喪失	中期	中	ホテル周辺の環境・景観美への投資		
				海面上昇による浸水	海岸沿いホテルの敷地浸食による修繕維持費増加	長期	中	海面上昇を引き起こす要因である温室効果ガス排出量の削減 洪水対策として、防潮・防水設備、地盤工事を行う		
				機会	生態系の保護 復元、再生	景観保全投資 により観光地の価値向上	売上の向上、ブランド価値の向上	中期	中	水源地の涵養のため、森林保護へ投資 琵琶レイクオーツカ:琵琶湖の水質改善のため琵琶湖に生える枯れ葦を使用したレイクパピルス®を名刺や封筒に利用 社員による琵琶湖の枯れ葦を刈り取るボランティア活動を実施
		システムインテグレーション事業/サービス&サポート事業	システムコンサル、導入、保守、オフィス通販事業	移行リスク	評判	PC等のIT機器の販売には機器の配送が必要になり、温室効果ガス排出削減の取り組み不足によるステークホルダーからの信頼低下	資金調達難	短期	中	TCFDで整理 雨水の利用や社員への過剰な水使用の抑制に関する周知を実施
						水資源の過剰利用による地域の水不足排水による水質悪化に伴うステークホルダーからの信頼低下による資金調達難	資金調達難	長期	小	
					規制	水資源に対する規制強化や水価値高騰	コスト増	長期	小	
物理リスク	慢性			水ストレスのある地域に事業拠点が所在する場合、水資源の制約により従業員にとって十分な量の水が確保されないことによる(トイレ・冷暖房使用制限)ことで事業継続に影響を及ぼすリスク	売上機会の損失	長期	小			
				地球温暖化の進行による異常気象、災害の増加	商品の配送に影響	短期	中	TCFDで整理		
機会	評判資本			輸送効率化に伴う、排出量削減の成功によるステークホルダーからの信頼獲得	売上の向上、ブランド価値の向上	短期	中	TCFDで整理		
	資源効率			販売と同時に下取り・回収を行い下取り等で固形廃棄物は発生するものの、大部分は有価物として再資源化廃棄物を削減することで、CO2削減、コスト削減に寄与	売上の向上、ブランド価値の向上 支出削減	短期	中	・再使用可能な機器は継続してリユース業者へ販売し、再使用が困難な機器についても分別を徹底することで、素材として再資源化可能な業者へ引き渡しを実施 ・やむを得ず発生する廃棄物については、焼却や埋立に依存しない処理を行う産業廃棄物処理業者へ優先的に排出 ・リサイクルしやすい商品の仕入れ・購入を推進		
	水利用効率化によるコスト削減			コスト削減	長期	小	雨水の利用や社員への過剰な水使用の抑制に関する周知を実施			